

1 学校として目指す授業

「わかる・できる」喜びや楽しさを実感し、主体的に学びに向かう児童の育成～協働的な学びを通して～

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
3教科において、全国や都の平均正答数を上回っている。特に、国語、算数ともに「知識・技能」では、8割近い正答数であり、基礎的・基本的な学力が定着している児童が多い。しかし、記述式の問題形式では、正答数が低くなっている。問題を読み取り、文章で表現することが課題である。	「授業の内容はよく分かる。」や「将来の夢や目標をもっている。」など肯定的な回答が全国を大きく上回っている。一方「先生は良いところを認めている。」や「大人に相談できる。」では、否定的に捉えている児童が多く、教師と児童の関係の所で課題があることが分かり、児童への積極的な声掛けが必要だと考える。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校4～6年生）

「学習内容が分かっている」「学習が得意である」という項目においてはどの教科も肯定的な回答が7割を超えており、学習に対して肯定的に捉えている児童が多い。その一方で、「どうやらうまくいか考えてから学習を進めるようにしている」「テストやドリルで間違えたときは、似た問題を選んで、特に練習している」や「他の人と意見が違ったときは、質問をして相手の考えを確かめている」「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」においては、否定的な回答が3割を超えるなど、学習を自分なりに調整したり、対話を通して考えを深めるといった点に対して否定的、もしくは苦手意識を持っている児童が一定数いることが分かった。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京ベーシックドリル診断テスト算数（7月実施） ・診断テストでは低学年の定着率は高いが、4年生以上では分からない内容をそのままにしている傾向が見られる。繰り返し、類似問題に取り組ませ、学び残しがないようにしていく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

<p>普段の学習状況より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや思いを根拠立てて、相手に伝えることが難しい。</li> <li>友達の考えを、最後までしっかりと聞くことができない児童がいる。</li> <li>課題解決の方法を、筋道を立てて考え、表現することを苦手としている。</li> </ul> <p>全国学力・学習状況調査より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を自ら発見したり、課題解決に向けた方策を自分で考えたりすることが苦手な児童が多い。</li> <li>国語では、端的な問題は正答率が高いが、複数の資料を関連付けながら正答に導くことに課題があった。</li> <li>算数では、端的な問題は正答率が高いが、回答の根拠を自分の言葉で説明することに課題がある。</li> <li>理科においては、既習事項の定着に課題があった。</li> </ul>
--

**【授業改善推進プランの活用法】**

- 「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。
- 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- 「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- 「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- 12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。  
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- 東京ベーシックドリルや、ICTを活用するなど個に応じた指導を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- 学級が安心して学べる居場所になるよう、「分からない・できないこと」を伝えたり助けたりする活動を重視し、協働的な学びが深い学びにつながることを理解させる。
- 探究的な学びや体験活動を通して協働的な学びを充実させ、子供同士で協力しながら様々な課題解決し、表現できる能力を養う。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し、自分の思いや考えを伝える機会を設定する。 ・分の構成や順序を意識して書けるよう、モデル文を提示する。				・ICTを活用して意見を共有し、考えを深める場面を設定する。 ・文章問題などは、問題を想起しやすいように、文章を絵や図で表して立式したり、何を聞かれている問題なのか発問をしたりする。				・季節の違いを実感し、四季に親しむことができるよう、体験的な活動を取り入れる。 ・ICTを活用し、言葉などによる振り返りや気付きを伝え合える場を適切に設定する。		・小集団での学習を通して、正しく拍を打ち正しい指振りで楽器を弾くことができるようにする。 ・歌や合奏を発表し合うことで、感じ方の違いに気付かせ、互いの感じ方を共有する場面を設定する。		・製作方法を理解したり、想像力を膨らませられるよう視覚的な支援を取り入れる。 ・ICTを活用して、友達と作品について紹介し合ったり見合ったりして思いや考えを広げられるようにする。				・課題設定や用具、場を工夫して基本的な動きを身に付けさせ、児童が体を動かす楽しさを味わわせる。 ・友達同士で動きの確認や場の共有をして、遊び方や体の動かし方を学び合える場面を設定する。				・「導入一展開一まとめ」と組み立て、実態を踏まえ動作化や役割演技を取り入れていく。 ・対話を通して、「自分ごと」として多面的・多角的に捉え自己の生き方について考えられる時間を設ける。	
中学年	・話し合いや聞く目的を明確にして互いの考えを共有することで、協働的な学びの実現を図る。 ・考えをまとめて文章で表す活動を繰り返し設定し、書く力を身に付けさせる。		・提示した資料の内容を整理して、自分の考えをまとめることができるようにする。 ・ICTを活用して自分の考えを友達と共有し、友達の意見を取り入れることで学びを深める。		・課題設定の場面では、児童がめあてを設定し、一単位時間で学ぶことを明確にする。 ・ICTを活用して考えを共有・比較する場面を設け、多面的な考え方を身に付ける。		・根拠のある予想をもたせるために、事象との出会いの時間を十分に確保する。 ・考察を書く観点について指導して、共有する時間を設け、考察を書く力を高め、理科的な思考を深める。				・一人での学習や友達と取り組むことなどの学びの選択をさせることで、主体的な学びと協働的な学びを実現させていく。 ・生活や社会との関連をもつ教材を選択し、音楽を愛好する心情を育て		・題材の提示した時に、どのような事が出来るのかを示し、発想が広がりやすい展開を設定する。 ・一人一人に合ったペースで活動を行い、見つけた楽しさや喜びを他者と共有する機会を積極的に設ける。				・課題解決のために何が必要かを考える力を高めるため、ICTの活用や場を選択させる。 ・協働的な学びの視点として、自分や友達の動きを見合ったり伝え合ったりする活動を意図的に設定する。				・道徳的価値を捉えるために、具体的な場面を設定させて児童が「自分ごと」として考えられるようにする。 ・話し合い活動を取り入れ、考えを共有し、多様な考えに触れ、深い学びの実現を図る。	

高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい文章かどうか確認するため、文章を互いに見合わせたり、声に出して確認したりする。</li> <li>対話的活動を多く取り入れる。意見を相手に順序立てて伝え、友達の考えを聞くことで思考力を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な事象を様々な視点から捉えられるように、学習問題を設定する時間を大切にす。</li> <li>ICTを活用し、資料から読み取ったことを比較・整理し、共有することで、さらに自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用やノート指導を充実させ、様々な方法で表現し友達の意見を共有することで、思考力を高めていく。</li> <li>支援方法を工夫し、児童が課題別で取り組めるような場面を設定し、達成感をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想を立証するための実験方法を考えさせてから行うことで、思考力と知識を定着を図る。</li> <li>根拠を明確にできるように、導入では既習事項の振り返りや日常生活の体験を想起させる時間の充実させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造などとの関りについて理解し、音楽表現に必要な技能を身に付ける。</li> <li>友達と表現の良さを認め合い、相手意識をもって演奏する楽しさを感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見出した活動への楽しさを共有し、新たな視点の楽しさを見出す機会を活動の中に設ける。</li> <li>一人一人のペースを大切に活動を行うと共に多様な意見を共有し合意形成を図る活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中から課題を設定し、問題解決的な学習を軸に主体的、協働的に取り組む。</li> <li>製作や実習では、一定の条件の中で自主的に課題を選択し、学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やトリオ学習を用いながら、技能を伸ばしたり、思考力を高めたりする。</li> <li>自己や仲間の課題を見付け、解決の仕方や改善方法を考えることができるよう、解決のための道筋を児童と共に立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通して、コミュニケーション力や表現力が身に付くようにする。</li> <li>児童が楽しく主体的に取り組めるように、活動内容・学習課題・形態を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>議論する時間を意図的に設け、多様な感じ方や考え方に出会い、道徳的価値について自分なりに考えられるようにする。</li> <li>思いを表現しやすくするためにICTやワークシートなど表現方法を選択させていく。</li> </ul>	
-------------	---	--	---	--	--	---	--	---	---	--	---	--